

●ブックトークシナリオ

【テーマ】 深読み！江戸時代

【対象】 中学生

【所要時間】 20分

シナリオの記載方法について

- ・動作は□で囲ってあります。
- ・表示したページ番号は、ここで使用した本によります。版が違えば、確認してください。
- ・本を朗読する部分は、【 】で囲った太字になっています。
- ・本と本をつなぐ言葉は二重下線を引いてあります。

【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	ひまなこなべ ～アイヌのむかしばなし～	菅野茂／文 どいかや／絵	あすなろ書房	2016
2	絵で見る日本の歴史	西村繁男／作	福音館書店	2001
3	おもしろ落語図書館 その1	三遊亭円窓／著 長野ヒデ子／画	大日本図書	1996
4	算法少女	遠藤寛子／著	筑摩書房	2006
5	ジョン万次郎	マーギー・プロイス／著 金原瑞人／訳	集英社	2018

【シナリオ】

●導入

最初に、ある民族に伝わる昔話の絵本を読みます。聞いてください。

1 『ひまなこなべ』

表紙を見せ、最初から最後まで読み聞かせする

『ひまなこなべ』というアイヌの昔話でした。皆さん、アイヌという民族を知っていますか？ 北海道などに住んでいたアイヌは、江戸幕府によって支配されるようになりました。幕府は、北海道から沖縄にあった琉球王国まで、日本列島全体を支配していたことになります。今日は「深読み！江戸時代」というテーマで、小学校で習った江戸時代について、さらに深く知ることができる本を紹介します。

2 『絵で見る日本の歴史』

表紙を見せる

まずは江戸時代の日本を『絵で見る日本の歴史』で見てください。

p.36～37のイラストを見せる

江戸幕府は「参勤交代」という制度を作り、各地の大名が江戸に通うようにしていました。ここに、地方の城から江戸へ向かう大名行列が描かれています。イラストの下には簡単な説明があります。さらに、後ろには詳しい解説があり、

巻末 18 場面（大名行列）の解説 1～3行目を読む 【大名道中は朝まだ暗いうちから（中略）歩いたそうです。】

と書かれています。40km というと、だいたい甲府から上野原くらいまでの距離です。

p.42～43 イラストを見せ、p.42 1行目～p.43 1行目を読む

この場面では、船を使って当時の税金であるお米を運ぶ様子や、船着き場を歩く旅人の様子が描かれています。大名や商人など旅をする人が増えたため、こんな変化がありました。【街道がととのえられ、宿場ができ（中略）江戸や大阪にとどけられました。】

また、江戸の町にはこの絵のようにたくさんのお店が並んでいたそうです。説明を読んでみます。

p.44～45 イラストを見せ、p.44 1行目～p.45 1行目を読む

【江戸、大阪などの大都市の表通りには、商店が軒をならべました。（中略）その日ぐらしの奉公人や職人、行商人などがすんでいました。】

絵をよく見ると、洗濯する母親のそばで子どもたちが水浴びをしていたり、八百屋さんが人とぶつかって道に野菜をぶちまけてしまっていたりします。

表紙を見せる

描かれている人々が何をしているのか、深読みしてみるのも、この本『絵で見る日本の歴史』の楽しみ方の一つです。

3 『おもしろ落語図書館 その1』

表紙を見せる

学校ではあまり詳しく取り上げない、江戸時代の長屋に住む人々の暮らしぶりは、落語を読むとよくわかります。みなさん、落語を聞いたことはありますか？ 落語は一人の人が何人もの人を演じる伝統芸能の一種です。江戸時代、落語は何と言われていたか、落語豆知識を読んでみます。

p.141 1行目～4行目を読む 【（はなし）とってました。（中略）明治時代に入ってからだそうです。】

落語には、長屋に住む八五郎と熊五郎、物知りのご隠居さんなどがお決まりの人物として登場します。

この『おもしろ落語図書館その1』は有名な落語を集めたシリーズの1冊目で、登場人物の名前や年齢、誰のセリフなのかがきちんと書かれているので、初心者でもわかるように工夫されています。「子ほめ」という落語の最初を読んでみます。

p.111 5行目～8行目を読む 【人さまと付き合うときに、世辞、愛敬というものが大変に大切なんだそうです。（中略）隠居「そういう声はハつつあんかい。さあ、こっちへお上がり」】

八五郎は何かというと同じ長屋に住むご隠居さんのところへ来ます。この日は、いきなりご隠居さんにお酒を飲ませてほしいと頼みました。すると、ご隠居さんは……。

p.112 2行目～7行目を読む 【「人さまからお酒の一杯もご馳走になろうと思ったら（中略）どういうふうに？」】

八五郎はご隠居さんに子どもの褒め方を教えてもらい、子どもが生まれた友達、竹ちゃんの所へ出かけます。早速赤ちゃんを褒めようとする八五郎と竹ちゃんのやりとりを読んでみます。

p.120 5行目～12行目を読む 【赤ん坊は？」竹「そっちに寝てる。（中略）馬鹿なこと言うなよ」】

八五郎は、うまく褒めてお酒にありつけるのでしょうか。

表紙を見せる

「おもしろ落語図書館」シリーズは1冊に短い落語が10話入っています。10巻まであるので、面白い話がきっと見つかると思います。読んでみてください。

4 『算法少女』

江戸時代、八五郎のような町人は学校で何年間も勉強することはなく、寺子屋で読み書きなどを習うだけで働きに出ていました。また、寺子屋に行けない人もいました。江戸時代が始まって170年ほど経った1775年、『算法少女』という本が出版されました。『算法少女』は日本独自の算術、和算の問題集で、町医者の娘が学んだことを書き留めた設定になっています。

表紙を見せる

この本は、その『算法少女』ができるまでを想像して描いた物語です。主人公は13歳の女の子

で、名前は「あき」。日本独自の数学「和算」を父親から教えてもらい、趣味として楽しんでいました。父親は医者でしたが、稼いだお金を和算の本を買うために使ってしまい、あきの家は貧乏でした。それで、時々父親と母親がこんな言い合いをしました。

p.56 8行目～10行目を読む 【「ほんとに、算法なんぞ、いくらやったって、くらしのたしにならないのに、あなたは、あきにまでこのみょうな遊びをしこんでしまわれて……」「ええやないか。上品なたのしみやで」】

皆さんも「勉強は何のためにするのか」と考えたことがあるでしょうか。あきは和算が得意でしたが、何のためかという、まだはっきりとはわかりませんでした。

ある時、有馬という大名が、あきの才能を見込んで自分の娘に和算を教えてもらいたいと考えました。ところが、家臣はもう一人の和算ができる少女・宇多^{うた}を推薦^{よりゆき}します。大名の有馬頼^{よりゆき}と、家臣の藤田貞^{さだすけ}資の会話を読んでみます。

p.102 11行目～p.103 5行目を読む 【あきは、まだはっきりめしかかえるときめたわけではない。(中略) 頼^{よりゆき}は、きげんよく座を立った。】

一方で、ひょんなことからあきは寺子屋に行けない子どもたちに算法を教えることになります。さて、あきは算法勝負を受けるのでしょうか？ もしあきが勝って大名の家に行ってしまったら、子どもたちは勉強を続けられるのでしょうか？

江戸時代の様子がわかる他、趣味と仕事の関係や、学ぶことの意味を考えるきっかけにもなる本です。作者の遠藤寛子さんの言葉を紹介します。

p.4 11行目～12行目 【この本を読まれたみなさんが、(中略) 忘れないでいてほしいとおもいます。】

5 『ジョン万次郎』

皆さんは江戸時代、日本が鎖国をしていたことを習ったと思います。外国の知識や文化が入ってこない中、『算法少女』の作者が言うような「ひらかれた、ひろい心」を持つのは難しそうです。

表紙を見せる

でも、この本『ジョン万次郎』の主人公のように、外国で暮らさなければならない状態になったら、どうでしょうか？ この本は、江戸時代の終わり頃、土佐藩、今の高知県に住んでいた漁師の若者、中浜万次郎がアメリカに渡った実話を基に書かれています。フィクションなので、実際とは違う部分もあります。どんな物語か紹介しましょう。

14歳だった万次郎は、アジを獲る船に乗っていましたが、船が難破してしまいます。そして、アメリカ人のホイットフィールド船長に助けられました。外国人は当時「鬼」と恐れられていたので、万次郎は怖さもありましたが、自分たちとは違うアメリカ人の様子に興味を抱きます。

口絵「ジョン万次郎がたどった道」を見せ、航路(アメリカに行くまで)を指さす

万次郎は、アメリカ大陸をぐるっと回ってアメリカのニューベッドフォードまで行きました。当時、日本は鎖国していたため、アメリカの船に乗せてもらって戻るのは難しく、万次郎は船の上で暮らしながら折を見て日本に戻ろうと考えました。英語を憶え、船乗りの仕事を身につけていく万次郎ですが、船乗りたちから日本に関する噂を聞かされます。

p.84 14～16行目を読む 【「うわさにきいたんだが、遭難した船乗りたちを狭苦しい檻に入れておいて」とエドワード。(中略) ジョリーが持ち場でぼそっといった。】

ニューベッドフォードで過ごす間にも差別を受けましたが、万次郎はくじけませんでした。アメリカという国の仕組みや、人々をよく観察して、こう考えるようになりました。

p.194 2～3行目を読む 【この国ではだれもが将来に希望を持てる。(中略) よし、それに専念しよう。】

漂流してから10年。ついに万次郎は日本に帰るための作戦を決行します。

表紙を見せる

『ジョン万次郎』は、アメリカの優れた児童文学に贈られるニューベリー賞にも選ばれました。なぜ選ばれたのか、読んで確かめてみてください。

●まとめ

紹介した本の表紙を順に見せる

今日は、「深読み！江戸時代」というテーマで、5冊の本を紹介しました。

アイヌの昔話絵本『ひまなこなべ』、細かく書き込まれたイラストの『絵で見る日本の歴史』、町人の日常が分かる『おもしろ落語図書館その1』、和算の新たな道を拓いたあきの物語『算法少女』、鎖国時代にアメリカを見てきた若者の話『ジョン万次郎』です。

気になった本があったら、手に取ってみてください。どの本も図書館や書店で手に入ります。

【その他の本】 こちらの本もおおすすめです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『^{りんぱ}琳派をめぐる三つの旅 ～^{そうたつ}宗達・^{こうりん}光琳・^{ほういつ}抱一～』 俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一／画

神林恒道／監修 泉谷淑夫／文 博雅堂出版 2006年

- ・『琉球という国があった』

上里隆史／文 富山義則／写真 一ノ関圭／絵 福音館書店 2020年

- ・『チポロ』 菅野雪虫／著 講談社 2015年

(山梨県立図書館 2025.12)